

女性起業家育成・応援事業【海士町】



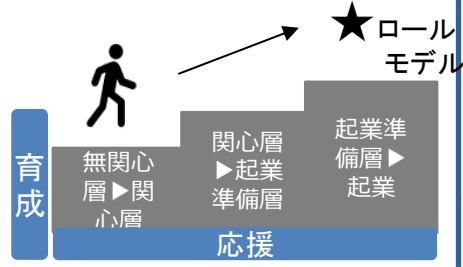
個別事業費	5,000 千円
交付金額	3,699 千円

地域の実情と課題

1. 経済循環の危機と産業の硬直化経営者の高齢化が深刻であり、10年後には70%以上が高齢層となる。40歳未満の経営者はわずか6.4%と極少で、若手・女性起業家が皆無に近い現状は、地域産業の衰退と雇用喪失に直結する。2. 閉塞的な社会構造と性別役割分担離島特有の伝統的な価値観やしがらみが根強く、女性の家事・育児負担が当然視されている。これが女性のキャリア選択や社会参加を阻む最大の障壁であり、Uターン・定住を阻害する要因となっている。3. 地理的孤立による資源アクセスの制限島内に多様な就業選択肢や起業支援の専門窓口、学習機会が不足している。都市部と比較してビジネスネットワークや市場規模が限定的であり、起業に必要な知識・スキル・マインドセットを得る機会が決定的に欠けている。4. ロールモデルと支援インフラの欠如身近な成功事例やロールモデルが存在しないため、起業への心理的ハードルが極めて高い。加えて、家庭責任と事業を両立させるための支援サービスも不十分であり、挑戦を支えるインフラが整備されていない。

事業の特徴

段階的育成プログラムの完遂：自己分析による関心喚起から、アイデアだしから事業計画策定までを段階的に支援し、起業意欲を具体的な事業案へと昇華させる。専門家による徹底した伴走支援女性創業アドバイザーによる個別窓口を設置。資金調達や補助金申請など、事業継続に直結する実務面を強力にバックアップし、生存率を高める。戦略的ネットワークの構築島内外の経営者とのマッチングを断行し、成功事例を可視化する。孤独な起業プロセスを排し、持続可能なビジネスコミュニティを形成する。



事業の効果

無関心層から関心層、さらに起業準備層への移行が着実に進んだ。単なる啓発に留まらず、実質的な創業とそれを支えるインフラが構築された「なんでも相談室」の設置により、孤独になりがちな起業プロセスを支える常設のバックアップ体制が整った。島内で活躍する女性たちのリアルな姿が共有され、挑戦を支えるコミュニティが生まれた。

目的・目標

● 起業への心理的ハードルを下げ、女性が自信を持って挑戦できる環境を整える。起業希望者が気軽に相談できる環境を整備し、具体的なノウハウや情報提供を通じて実現可能性を高める。成功事例やロールモデルとの接点を増やし、挑戦する意欲と具体的なイメージを醸成する。
 ※参加後のアンケート等では、関心度をうまく測れない可能性があったため、事業開始は0人であった個別伴走支援申込者5名のうち1名が起業、4名が起業準備中であるため、それをもって女性の起業への関心度UPとなったと評価する。

	目標・KPI	目標	実績	達成率
事業目標	女性の起業への関心度UP	10%増	事業開始時は0人であった「個別伴走サポート・なんでも相談室」申込者6名のうち1名が起業、4名が起業準備中	概ね達成
事業KPI	個人事業主を含む起業の人数	1名	1名	100%

連携団体

隠岐国商工会と連携：商工に関する情報提供やアドバイス
 海士町役場 交流促進課：参加者へ、制度の情報提供を行う。（海士町未来共創基金や有人国境離島補助金等）

今後の課題

1. 評価指標（KPI）の高度化と継続的な関心度の把握アンケート精度の向上：参加後のアンケートのみでは「起業への関心度」を正確に測定しきれない懸念があるため、より実態に即した評価手法の確立が必要である。
2. 起業プロセスの継続的支援とリソースの最適化
 準備層から創業への確実な誘導：現在、個別伴走支援を受けている5名のうち4名が「起業準備中」の段階にある。これら準備層を脱落させることなく、実際の創業（登記・開業）へと導く継続的なフォローアップ体制が不可欠である。
3. 相談チャネルの活用促進
 公式LINEによる相談窓口を設置したが、現時点での相談実績が0件であることから、利用ハードルをさらに下げるための周知や運用の工夫が求められる。

事業の概要

○事業① ジェン発見ラボ

○目的

少人数対話型3回連続プログラムを実施し、無関心層のキャリアへの関心喚起を図るとともに、キャリアの棚卸しと自己分析を通じて「やりたいこと」への気づきを支援する。



○事業③ ココロおどるLABO

○目的

地域の起業家や実践者との対話を通じて、「やりたいこと」を事業的な視点で捉え直し、参加者がこの町での未来像を主体的に描くことを目的とする。



○事業② コトはじめラボ

○目的

起業家や実務家とともに参加者の「やりたいこと」を磨き、事業アイデアとして具体化することを目的とした全6回のプログラムを実施。マインドセットの醸成から事業化前段階までを体系的に学び、コト(事業)づくりへの理解と意欲を高める。



○事業③ あまじよコトづくりLABO 「個別伴走サポート・なんでも相談室」

○目的

「あまじよコトづくりLABO」の一環として、参加者の「やってみたいコト」を継続的に形にするため、単発講座にとどまらない伴走型の支援体制を構築した。専門スタッフによる個別支援や気軽に相談できる環境を通じて、一人で悩む時間や心理的ハードルを下げ、事業化・実践に向けた着実な一歩を後押しする